

台湾の近代化に注いだ 長州人 達の熱情を 未来につなぐ



2018年
10月21日
13:00-16:00 (Sun.)

会場 山口大学 大学会館
山口県山口市 吉田1677-1

対象 学生、一般

参加無料

第一部 台湾の近代化を推進した明治の長州人達と台湾アイデンティティ



西崎博史
児玉源太郎顕彰会事務局長
周南市文化会館館長
児玉源太郎顕彰会会報「藤園」編集委員



竹村昌浩
山口放送取締役・報道制作担当
「明治の運命を背負った男 児玉源太郎」
(2018/KRYテレビ)制作



劉Formosa淑恵
高雄師範大学教授
國家公園学会会員
中華民國戶外遊憩学会員



酒井充子
映画監督・文筆家
映画『台湾アイデンティティ』、『台湾萬歳』
『台湾人生』(文芸春秋)



福屋利信
山口大学国際総合科学部特命教授
台湾・開南大学客員教授
『台湾の表層と深層』(太陽出版)



小川仁志
山口大学国際総合科学部准教授
『教養としての中国哲学』(PHP研究所)
NHKテレビ番組「世界の哲学者に人生相談」指南

第二部 歴史を未来につなぐパネルディスカッション

上記のパネリスト6名に、台湾・中国での交換留学(1年間)を体験した国際総合科学部学生も加わります。

台湾の近代化に注いだ 長州人達の熱情を未来につなぐ

概説

「台湾は世界一親日だ」と言われる。しかし、同じように日本が植民地化し、太平洋戦争の敗北とともに植民地を去った韓国・中国(満州)で反日感情が残り、なぜ台湾にのみ親日感情が残ったのか、その理由を殆どの日本人は知らない。また。

このシンポジウムでは、台湾の親日感情の源泉を、台湾の近代化過程において明治の長州人達が成した偉大なる貢献に辿る。「私の職務は、台湾を治めることであり、討伐することではない」と語った第四代台湾総督・児玉源太郎(周南市出身)、「台湾の教育の父」とされ、その気高い日本精神が台湾人からの尊敬を集める楢取道明(萩市出身・吉田松陰の甥)、「台湾の鉄道之父」と称され、台湾を縦断する鉄道の礎を気づいた長谷川謹介(山陽小野田市出身)、「台湾東部開拓の祖」と言われ、花蓮にその偉業を伝える研究所まである賀田金三郎(萩市出身)、台南にハヤシ百貨店を創立し、戦後の台湾のデパート業界を牽引した林方一(旧佐波郡出身)などが注いだ台湾近代化に対する並々ならぬ熱情によって、台湾に親日感情が芽生え今日に至っている。こうした郷土の先人たちの歴史的偉業は、もっともっと深く検証されるべきであり、本シンポジウムは、その営為の一助たり得ることを目的とする。

一方で、台湾人の深層心理には、日台史の中で、悲しい史実をぐっと呑み込んだ一面が存在する。その台湾人の心底をほとんどの日本人は理解していない。

日本統治時代に日本政府の行った皇民化政策は、大戦中、台湾人をして進んで日本人として戦線に赴かせるための政策と化していった。「児玉翁こそ台湾の大恩人」として児玉源太郎の為した治世を高く評価する李登輝元台湾総統でさえ、実兄の李登欽が日本軍に志願兵として出征・戦死した点には「わだかまり」を吐露している。

加えて、1972年の日中国交正常化にともなう日中共同声明においては、「台湾が中華人民共和国の領土の不可分の一部であること」を日本は認めている。以後今日に至るまで、日本は台湾を独立国家として認知していない。その間の日本の難しい政治的立場に一定の理解を示しつつも、台湾人の大半は、日本政府の外交スタンスに「もどかしさ」を有しているのも事実だ。このように、台湾の親日感情は、日本人の思っているほど単純ではない。勿論、中国側にも歴史的な背景からの主張があり、ニュートラルな立場を堅持するため、その視点も包含しつつ議論を進めていく。

本シンポジウムは、歴史検証に重点を置きつつも、最終的には、その歴史を未来につなげていく方向性を提示したい。その意味で、第二部のパネルディスカッションは、台湾、中国に一年間交換留学した経験を持つ国際総合科学部の学生たちを中心に進行していく。そこに、第一部の登壇者の知見を添えて、東アジアの未来を議論する。その際、海を越えて台湾の近代化に貢献した明治の長州人達のグローバルマインドを基点としてほしい。

プロジェクト研究代表者：福屋利信

スケジュール

- 13:00 ~ 13:10 開会の辞：岡正明 山口大学学長
- 13:10 ~ 14:50 [第一部] 台湾の近代化を推進した明治の長州人達と台湾アイデンティティ
- 14:50 ~ 15:00 ——— 休憩 ———
- 15:00 ~ 15:50 [第二部] 歴史を未来につなぐパネルディスカッション
- 15:50 ~ 16:00 閉会の辞：田中和広 山口大学理事副学長

